

2014年版 中小企業白書の概要

2014年版「中小企業白書」が、4月25日に閣議決定され、公表されました。

第1部では、最近の中小企業・小規模事業者の動向について分析し、第2部では、より中長期的な観点から、中小企業・小規模事業者が直面する経済・社会構造の変化(人口減少、地域の抱える課題等)について分析をしています。これらを踏まえた上で、第3部で、五つの柱(小規模事業者の構造分析、起業・創業、事業継承・廃業、海外展開、新しい潮流)に従って、現状分析と課題抽出を行うとともに、それぞれについて具体的な政策提言をしている。

さらに、第4部では、中小企業・小規模事業者385万社に施策を届け、効率的かつ効果的に支援していくため、支援の在り方の分析をしている。

このたびは、第3部の内容を抜粋して掲載いたします。

第3部 中小企業・小規模事業者が担う我が国の未来

第1章 「小規模事業者」の構造分析

地域の経済社会・雇用を支える重要な存在たる小規模事業者の原状、実態、課題等について、約18,000社のアンケートに基づき、商圏に基づく類型化(地域需要志向型、広域需要志向型)や組織形態に基づく類型化(維持・充実型、成長型)など本格的な構造分析を行っている。

小規模事業者の最大の課題は「需要・販路開拓」であるが、地域需要志向型の小規模事業者は、住民との信頼関係を活かしたニッチな需要の掘り起こしを目指すべきこと、広域需要志向型の小規模事業者は、インターネット販売の活用や大企業とのマッチングを通じた需要開拓を目指すべきことを提言している。

販路開拓を行う際の課題ごとの支援の在り方

課 題	支 援 の あ り 方
新規顧客へのアプローチ方法	•技術提案型商談会
販売すべきターゲット市場の選定	•商工会・商工会議所による販路開拓支援 •販路開拓アドバイザーの活用
商品・サービスのPR	•地場製品の展示会開催 •アンテナショップ運営 •ネット販売支援

第2章 起 業 ・ 創 業

起業・創業は、新たな地域経済の担い手を創出すると共に、産業の新陳代謝を促す。しかしながら、我が国の起業希望者は激減しており、開業率は欧米諸国の半分又はそれ以下となっている。こうした現状を踏まえ、起業に至るまでのステージに応じて、女性、若者、シニアに特に焦点を当てた課題分析をしている。この結果、我が国の起業・創業を活発化させるためには、「起業意識」、「起業後の生活・収入の安定化」、「起業に